

04

グループ会社の取り組み

未来
想
造

※未来想造舎 和一久とは?

障害者自立支援法に基づく就労継続支援の場。就労継続支援A型とB型があり、椎茸加工や配食などを行っています。創心會ディサービスのご利用者様も在籍しており、社会参加の場にもなっています。

『雇用事例を通しての感動と成長』をテーマに講演!

障害者雇用を支える地域支援ネットワーク構築を目指して

11月8日くらしき健康福祉プラザにて「将来に向けての障がい者雇用セミナー2013」が開催されました。株式会社創心會とNPO法人 未来想造舎和一久は、TEAM PLUS(障がい者雇用の促進を考える企業で構成されたグループ)に所属して、今年で3年目になります。セミナーでは、平成23年に発足したTEAM PLUSの活動の軌跡や、岡山大学病院精神科神経科医師 流王 雄太氏による講演、独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 三宅信広氏による助成金及び就労支援機器等の啓発についての説明がありました。

午後から行われた分科会では、未来想造舎和一久と青山商事による雇用事例の紹介が行われ、講演後には企業と利用者側、学校側のディスカッションが行われました。



▲NPO法人 未来想造舎和一久 理事 廣田聖治氏



05

創心會倉敷地域リハビリケアセンターの取り組み

創心會リハビリ俱楽部 笹沖にて「秋祭り」開催!

初の取り組み「子供向けビジョントレーニング」の反響上々

創心會倉敷地域リハビリケアセンターにて、事業所設立6周年を記念して、11月17日に「第1回秋祭り」が開催されました。会場では、株式会社創心會で使用されている公式ポストカードのイラスト作者である、米田辰宏さんによる個展や、障がい者サークル「スイーツ俱楽部」によるぶどう大福の販売などが行われました。

元気デザイン俱楽部のフロアでは、創心會“初”的取り組みとなる小児対象のビジョントレーニングが行われ、子どもたちの笑い声が響き渡っていました。約30分のト



レーニングの中で、大小複雑に並んだ番号を1から順に素早く見つけていくナンバータッチや、じゃんけんを応用した視覚訓練など数種類のトレーニングが実施されました。神経系の発達は10歳頃までにほぼ終わると言われています。ゴールデンエイジと呼ばれる年代に楽しくビジョントレーニングを受けて頂きたいたいとの想いで、今回限定で行われた取り組みですが反響も良く、多くの方に喜んで頂きました。

PRIDESign powered by Soushinkai 2013 - No22

2013年第22号 平成25年12月1日発行
編集・発行 株式会社創心會 広報部

株式会社 創 心

岡山県倉敷市茶屋町2102-14 TEL.(086)420-1500 FAX.(086)428-0946
URL: http://www.soushinkai.com



12
月号



障がい者・高齢者の自己実現を支えるケア

特集 民介協主催 第八回「事例発表会」
中四国ブロック代表に選抜

01 全盲で登山に挑戦したご利用者様

- 02 リハビリ俱楽部今見学会開催
- 03 GH園芸療法の一環で芋ほりに参加
- 04 障がい者雇用の促進を考える
- 05 リハビリ俱楽部 笹沖「秋祭り」開催

特 集

「民間事業者の質を高める」一般社団法人 全国介護事業者協議会主催

第八回「事例発表会」中国・四国ブロック地区予選会開催

石井裕子さん中四国ブロック代表に決定

民介協主催「事例発表会」とは?

一般社団法人 全国介護事業者協議会（通称：民介協）は、平成14年の設立当時から現在に至るまで介護保険制度の歩みとともに、「質の高い介護サービスの提供」をテーマに、多くの活動を行ってきた民間事業者団体です。その民介協が主催する第八回「事例発表会」中国・四国ブロック地区予選会が、11月16日後楽ホテルにて開催され、創心會からは石井裕子さんと小山隆幸さんがエントリーしました。当日は、中国・四国地方にある訪問系事業所に所属する13組が「エビデンスに基づくケア」「自立支援に資するケア」「地域包括ケアに向けた取組み」などをテーマに事例発表を行いました。

発表は、今後の介護・福祉の流れを汲んだ定期巡回随時対応型訪問介護看護を取り上げた事例や、訪問介護スタッフの育成に関する事例など、どれも素晴らしいものばかりでした。その中で、中国・四国ブロック代表に創心會訪問看護ステーション福山の作業療法士 石井裕子さんが選ばれたことは、本当に名誉なことだと、スタッフ一同よろこんでいます。

北海道、東北・関東甲信越、東海・北陸、関西、中国・四国、九州・沖縄の6ブロックから選抜されたメンバーは、平成26年3月15日女性就業支援センター（東京都港区三田）で開催される第八回「事例発表会」に参加します。優秀事例については、民介協の機関紙及びホームページ、厚生労働省老健事業の報告書などに掲載される予定となっています。

●創心會が発表した2つの事例

コミュニケーションツール開発をきっかけに、グループ会社との連携を通して社会交流の拡がりにつながった事例（小山隆幸）

C6以下の完全麻痺がある50歳代の女性。5年前から訪問看護ステーションリハビリ部門を利用されている。利用開始から2年経過して、外出範囲が拡大。同時期、創心會グループ会社で障がい者の社会参加支援を行う株式会社ハートスイッチが、地元K大学のプロダクトデザイン学科と片麻痺の方にも使い易いiPadケースの共同開発プロジェクトを開始。この方は、プロジェクトへ障がい者モニターとして参加をする。

モニター経験後より、以前は消極的であった身体機能向上訓練について意欲を示されるように。また、傾聴ボランティアという社会参加の目標を持たれるようになった。

皆が一人の為にできる障がい者就労支援の在り方について（石井裕子）

左片麻痺の60歳代女性。病院からの紹介で訪問看護ステーションリハビリ部門を利用開始。ご本人に就労への意志があったため、就労支援のための身体的機能訓練、精神的ケアが実施される。心身機能の向上が見られたタイミングで、株式会社ハートスイッチ、雇用担当者、療法士が連携して創心會の障がい者雇用枠での入社を調整。無事、就職に至る。就労後は、現実と理想のギャップに悩む様子が見られたが、人間関係の構築や存在役割・行動役割を徐々に確立する。その後、新たな可能性を見出したご本人と共にヘルパー2級取得講座の為に支援開始。ヘルパー養成研修事業者と療法士の連携で資格を取得。これらの経験を通じ、要介護者の社会参加や就労を目指す「支援者側」の役割は、サポートチームを形成することであるという考えに至った。



01

創心會訪問看護ステーションより

心のスイッチをオンに！「できる」を「知らせる」効果 全盲で登山に挑んだご利用者様

路上での転倒をきっかけに、平成24年8月から筋力強化を目的として、創心會訪問看護ステーションリハビリ部門の利用を開始された長谷川重子さま。6年前までは、視覚障がい者の登山クラブに所属し登山を楽しんでいたものの、ほんの数か月休んだことをきっかけに自信を無くし、山に登ることをやめてしまっていました。

担当の作業療法士井上直樹さんは、長谷川さんに主体的に訓練を行っていただけるよう自主訓練表を作成。その後、次第に身体機能が向上してきた長谷川さんの状態を見計らい、登山クラブへの再参加を提案します。不安で自信を喪失していた長谷川さんですが、「大丈夫。山に行けますよ。」という井上さんの声掛けでスイッチが切り替わったと言います。井上さんの声掛けは、日頃のアセスメントと、自らが登山をして動作分析を行った上の根拠のある声掛けでした。平成25年10月27日ついに登山成功。「井上さんのリハはさきびやさしい」（厳しく優しい）と冗談交じりに話す長谷川さんの言葉からは、井上さんに対する信頼が感じられました。

02

創心會リハビリ俱楽部 今の取組み

ケアマネジャー向け 「元気デザインユニット見学会」を開催。

10月にオープンした、創心會リハビリ俱楽部 今の元気デザインユニット。特徴は、脳・身体・心・眼をバランスよく鍛えるトリニティトレーニングにあります。例えば、心の訓練「メンタルトレーニング」では、効果を可視化するために訓練後、脳波測定を行っています。訓練後にフィードバックを行うことで、現状把握や目標設定を行うことができます。

また「ビジョントレーニング」では、環境適応能力の改善や転倒予防を目的として、視覚認知や脳内の情報処理能力、反射神経、バランスの強化を図ります。見学会は終了したものの、見学は随時受け付けており、各種トレーニングの体験も可能です。みなさま、是非一度、お越しくださいませ！

CHECK!

元気デザインユニットからみなさまへメッセージ
<http://youtu.be/k6YGsUOhGp0>



03

創心會グループホーム 心から撫川より

芋ほりで、ストレス軽減。園芸療法の効果を実感！



創心會グループホームでは筋力の低下防止、認知症予防・進行抑制、ストレス軽減などを目的に園芸療法を取り入れています。11月11日、グループホーム心から撫川と農業生産法人 合同会社 ど根性ファームの連携企画として、芋ほりを実施しました。参加されたご利用者様は、趣味や仕事の中で農業経験をお持ちの方です。農場での活動は初めての事で、不穏や混乱が見られるのではとの心配もありましたが、実際当日を迎えると、普段には無い良い表情をされました。帰所後も落ち着いた様子で、ある参加したご利用者様は、次の日も楽しそうに芋ほりでの出来事を話して下さいました。掘った芋は実践調理や正月のおせち料理に使う予定です。スタッフにとっても、農作業から得られる園芸療法の効果が実感できた貴重な時間となりました。

